

加古川市事務事業評価シート（令和2年度実施事業）

事務事業名	下水道事業会計支出事業	部局名	都市計画部
		課(室)名	都市計画課

【基本情報】

基本目標	05 快適に暮らせるまちをめざして
政策	02 安全で快適な暮らしの基盤を整備する
施策	06 雨水・汚水を適切に処理する
事業実施期間	昭和38年度 ～ 永年
事業区分	⑤市施策事業（経常）
地区別	その他
関連根拠法令等	地方公営企業繰出基準（地方公営企業繰出金について（総務省自治財政局長通知））

【事業概要】

現状と課題	繰出基準に基づき、雨水処理費等公費で負担すべきものを一般会計から下水道事業会計に繰出している。また、基準外繰出として、使用料で賄えない市債元金償還金等を繰出している。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	下水道事業のうち、公共的、政策的にその経費を一般会計が負担すべきものについて、下水道事業会計負担金及び補助金を支出し、地方公営企業の経営の健全化及び経営基盤の強化を図る。
対象 ※誰、何に対して	下水道事業会計
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	一般会計から下水道事業会計へ負担金及び補助金を支出する。

【コスト】

	令和2年度（決算見込）	
事業費合計	2,662,766 千円	
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	千円
	一般財源	2,662,766 千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	08 土木費
項	05 都市計画費
目	06 下水道費
細目	005 下水道事業会計支出事業

【コスト推移】

	平成30年度（決算）	令和元年度（決算）	令和2年度（決算見込）
事業費合計	3,086,753 千円	3,028,488 千円	2,662,766 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	<p>公費で負担すべき雨水処理及び汚水処理費について、公営企業への繰出し基準に基づき支出を行うと共に、政策的に一般会計が負担すべき経費については補助金を交付することにより、一般会計からの適正な支出のもと、下水道事業会計の安定的な経営に寄与した。</p>

加古川市事務事業評価シート〈令和2年度実施事業〉

事務事業名	下水道事業会計支出事業	部局名	都市計画部
		課(室)名	都市計画課

【対象】

対象指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
下水道事業会計	会計	1	1	1

【事業実績】

活動指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
一般会計繰出金	千円	3,058,503	2,994,520	2,640,218
活動指標分析結果	下水道事業会計の安定的な経営に寄与している。			

【事業成果】

成果指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目標値
下水道事業会計補助金 (繰出基準外)	千円	28,250	33,968	31,074	令和2年度	35,000
成果指標分析結果	平成29年度から雨水処理負担金・分流式下水道に要する経費を基準内の繰出金とすることで、基準外繰出金の削減を図っている。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和2年度実施事業)

事業名	市街化区域整備事業	部 局 名	上下水道局
		課 名	下水道課

## 【基本情報】

基本理念	未来へつなぐ 安心で快適な暮らしを支える下水道
方針	快適な生活環境の創出
目標	1 下水道普及率の向上
施策	1 未整備地域の早期解消
関連根拠法令等	都市計画法、下水道法、加古川市下水道条例

## 【事業概要】

現状と課題	市街化区域は、令和2年度末で整備率99.8%となっている。未整備箇所の主な理由は、物理的な要因として、土地の高低差により自然流下による施工が出来ないことその他、移設困難な埋設物が支障となること、また、土地の権利に関する要因として、本管を埋設する道路の地籍図が現地と整合していないことや、私道の所有者から埋設の承諾を得られないこと等がある。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	取付管設置後に、受益者による宅内排水設備の新設(改造)工事を行ってもらい、公共下水道を使用できる状態にする。
対象 ※誰、何に対して	【受益者】市街化区域内で公共下水道が整備されていない路線に面する土地に居住(又は営業)する市民(又は事業者)
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	対象路線に下水道管渠(本線)を埋設し、併せて対象地に対して取付管を設置する。

## 【コスト】

		令和2年度(決算)	
事業費合計		144,467	千円
財源内訳	国庫支出金	0	千円
	県支出金	0	千円
	地方債	137,200	千円
	その他特財	7,224	千円
	一般財源	43	千円

## 【会計】

会 計	下水道事業会計
款	資本的支出
項	建設改良費
目	汚水管渠築造費

## 【コスト推移】

	平成30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)
事業費合計	115,804 千円	54,134 千円	144,467 千円

## 【総合結果】

総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<p>詳細な現地調査や綿密な関係機関協議を進め、慎重に実施設計を検討することに合わせ、下水道へ接続するための各種補助金制度の活用を促すことで未整備箇所の解消に取り組む。このような取組においても、整備に至らない箇所においては、概成するにあたり、関係部局と調整を図りつつ対応方針を検討する。</p>

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
整備予定人口(当該年度施行決定工事)	人	48	43	65

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
工事発注件数	件	4	7	4
整備人口	人	18	4	80
活動指標結果	令和2年度の工事発注件数は4件あり、整備人口が80人増加した。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目標値
普及率	%	99.8	99.8	99.8	令和7年度	100.0
成果指標結果	工事発注を進め、未整備区域の解消は着実に進んでいるものの、普及率は横這い状態であり、引き続き目標値に向けて整備を進める必要がある。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和2年度実施事業)

事業名	市街化調整区域整備事業	部 局 名	上下水道局
		課 名	下水道課

## 【基本情報】

基本理念	未来へつなぐ 安心で快適な暮らしを支える下水道
方針	快適な生活環境の創出
目標	1 下水道普及率の向上
施策	1 未整備地域の早期解消
関連根拠法令等	都市計画法、下水道法、加古川市下水道条例

## 【事業概要】

現状と課題	平成27年度末の事業認可の変更により、公共下水道整備区域を見直し、主に市街化調整区域の未整備区域を整備している。今後10年間で公共下水道整備を概成させるためには、財源確保はもちろん必須ではあるが、新たな整備手法の導入がなければ、国からの方針である10年概成へ向けての、工事発注も困難な状況にある。令和元年度からは従来の整備方法に加え、新たな手法である官民連携手法の詳細設計に着手した。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	取付管設置後に、受益者による宅内排水設備の新設(改造)工事を行ってもらい、公共下水道を使用できる状態にする。
対象 ※誰、何に対して	【受益者】市街化調整区域内で公共下水道が整備されていない路線に面する土地に居住(又は営業)する市民(又は事業者)
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	対象路線に下水道管渠(本線)を埋設し、併せて対象地に対して取付管を設置する。

## 【コスト】

		令和2年度(決算)	
事業費合計		631,059	千円
財源内訳	国庫支出金	107,900	千円
	県支出金	0	千円
	地方債	473,000	千円
	その他特財	31,553	千円
	一般財源	18,606	千円

## 【会計】

会 計	下水道事業会計
款	資本的支出
項	建設改良費
目	汚水管渠築造費

## 【コスト推移】

	平成30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)
事業費合計	747,701 千円	745,989 千円	631,059 千円

## 【総合結果】

総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	国土交通省を含む三省(国土交通省・環境省・農林水産省)合意に基づき、市街化調整区域における下水道整備計画区域を縮小し、下水道事業は今後概ね10年(令和7年度まで)での事業概成を目指している。整備対象外となる地域においては浄化槽整備に対する補助金制度を設け、生活排水処理対策を進めている。引き続き事業を継続的・安定的に実施していくためには、限られた人員・財源の中で効率的な事業実施を行う必要がある。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
整備予定人口(当該年度施行決定工事)	人	724	593	255

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
工事発注件数	件	14	16	10
整備人口	人	594	550	71
活 動 指 標 分 析 結 果	工事の発注件数は10件であり、過年度と比較し発注件数及び整備人口は減少しているが、志方地区外公共下水道整備事業1工区(PPP)を発注したことにより、令和4年度以降には整備人口は増加する見込みである。※令和2年度の整備人口については、次年度への繰越工事分の整備人口は含まれていない。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目標値
普及率	%	74.3	76.5	78.3	令和7年度	100.0
成 果 指 標 分 析 結 果	令和2年度末における普及率は、前年度と比較し1.8ポイント上昇しており、目標に向けて着実に進捗している。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和2年度実施事業)

事業名	水洗便所普及奨励事業	部局名	上下水道局
		課名	お客さまサービス課

## 【基本情報】

基本理念	未来へつなぐ 安心で快適な暮らしを支える下水道
方針	快適な生活環境の創出
目標	2 良質な水環境の確保
施策	1 水洗化の促進
関連根拠法令等	下水道法、加古川市水洗化等促進条例

## 【事業概要】

現状と課題	下水道が整備された区域内の建築物の所有者は、下水道法の規定により接続義務があるが、市街化調整区域内には、高齢者のみの世帯や合併処理浄化槽を既に設置している世帯の割合が比較的高く、接続するには助成制度はあるものの経済的な負担を伴うことから、下水道への接続を躊躇する世帯も多い。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	下水道整備区域及び農業集落排水区域内の未水洗世帯等が下水道へ接続する状態にする。
対象 ※誰、何に対して	下水道整備区域及び農業集落排水区域内の未水洗世帯及び事業所
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未水洗世帯等に対し戸別訪問を実施し、水洗化を促す。</li> <li>・早期(供用開始から3年以内)の接続世帯に対し、水洗化助成金を交付する。</li> <li>・下水道施設見学や環境教室などの講座を通じて下水道のPRを行う。</li> </ul>

## 【コスト】

		令和2年度(決算)
事業費合計		6,999 千円
財源内訳	国庫支出金	1,000 千円
	県支出金	0 千円
	地方債	0 千円
	その他特財	0 千円
	一般財源	5,999 千円

## 【会計】

会計	下水道事業会計
款	事業費用
項	営業費用
目	水洗便所普及促進費

## 【コスト推移】

	平30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)
事業費合計	4,803 千円	7,914 千円	6,999 千円

## 【総合結果】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに、各部局において総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	水洗化を促すためには、助成金の交付により経済的負担を緩和するとともに、未接続世帯に対しては下水道に関するPRなどを継続的に行うことが必要である。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
未水洗人口	人	10,807	10,121	9,273

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
水洗便所設備助成金交付件数	件	119	155	133
未水洗家屋戸別訪問件数	件	1,294	1,070	1,194
活動指標分析結果	市街化区域と比較して整備対象戸数の少ない市街化調整区域が、整備区域の中心となってきたことから、対象件数の伸びも鈍化しているため、助成金交付件数が減少している。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目標値
水洗化率	%	95.5	95.8	96.2	令和10年度	100
成果指標分析結果	水洗化率は毎年着実に伸びており、助成金の交付及び未水洗家屋への戸別訪問が水洗化を促す一助となっている。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和2年度実施事業)

事業名	水洗便所改造資金貸付融資事業	部局名	上下水道局
		課名	お客さまサービス課

## 【基本情報】

基本理念	未来へつなぐ 安心で快適な暮らしを支える下水道
方針	快適な生活環境の創出
目標	2 良質な水環境の確保
施策	1 水洗化の促進
関連根拠法令等	下水道法

## 【事業概要】

現状と課題	下水道が整備された区域内の建築物の所有者は、下水道法の規定により接続義務があるが、接続するには経済的な負担を伴うことから、下水道への接続を躊躇する世帯も多い。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	下水道整備区域及び農業集落排水区域内の未水洗世帯が下水道へ接続する状態にする。
対象 ※誰、何に対して	下水道整備区域内及び農業集落排水区域内の未水洗世帯
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	金融機関に資金を預託し、下水道接続工事に係る費用の融資を希望する方をあつせんする。

## 【コスト】

		令和2年度(決算)
事業費合計		6,200 千円
財源内訳	国庫支出金	0 千円
	県支出金	0 千円
	地方債	0 千円
	その他特財	0 千円
	一般財源	6,200 千円

## 【会計】

会計	下水道事業会計
款	資本的支出
項	その他資本的支出
目	預託金

## 【コスト推移】

	平30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)
事業費合計	6,000 千円	5,800 千円	6,200 千円

## 【総合結果】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに、各部局において総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了 融資実行件数は少ないが、水洗化を希望するものの工事に伴う費用を一時的に用意することが困難な市民のニーズに応える施策として、継続して実施する必要がある。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
未水洗人口	人	10,807	10,121	9,273

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
預託金額	千円	6,000	5,800	6,200
活動指標 分析結果	申込み件数や金融機関での融資残高を勘案し、預託金額の見直しを検討していく。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目標値
融資あっせん申込数	件	0	1	0	-	-
水洗化率	%	95.5	95.8	96.2	令和10年度	100
成果指標 分析結果	融資あっせん申込数は景気の動向や市中金利などにより影響を受けるため、年度により増減が生じる。利用件数は非常に少数ではあるが、水洗化を希望する市民に対する経済的支援の一助として、制度自体は継続する必要があると考える。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和2年度実施事業)

事業名	管渠改築事業	部局名	上下水道局
		課名	下水道課

## 【基本情報】

基本理念	未来へつなぐ 安心で快適な暮らしを支える下水道
方針	危機に強い安全・安心な下水道の実現
目標	1 災害への備え 2 管渠・施設の機能維持
施策	1 管渠・施設の耐震化 2 スtockマネジメントの実践
関連根拠法令等	都市計画法、下水道法

## 【事業概要】

現状と課題	管渠の標準耐用年数である50年を過ぎた管渠は、令和2年度末で4.8%となっているが、今後大幅に老朽化が進行する。平成28年4月に下水道ストックマネジメント支援制度が創設されたことに伴い、平成30年度において下水道ストックマネジメント計画の策定を行った。今後はこの計画に基づき、長期的な視点で下水道施設全体の今後の老朽化の進行状況を考慮し、リスク評価等による優先順位付けを行ったうえで、施設の点検・調査、修繕・改築を実施し、施設全体を対象とした施設管理を進めることが求められる。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	健全な下水道施設の持続を図り、日常生活や社会活動に重大な影響を及ぼす事故発生や機能停止を未然に防止する。
対象 ※誰、何に対して	加古川市内の下水道施設全体および下水道を利用する市民
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	平成28年4月に下水道ストックマネジメント支援制度が創設されたことに伴い、平成30年度において下水道ストックマネジメント計画の策定を行った。今後はこの計画に基づき、管渠の劣化状況と財政面とのバランスを考慮した上で、計画的かつ効率的に改築・更新を実施する。

## 【コスト】

		令和2年度(決算)	
事業費合計		6,380	千円
財源内訳	国庫支出金	0	千円
	県支出金	0	千円
	地方債	6,300	千円
	その他特財	0	千円
	一般財源	80	千円

## 【会計】

会計	下水道事業会計
款	資本的支出
項	建設改良費
目	汚水管渠築造費

## 【コスト推移】

		平成30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)
事業費合計		111,208	27,793	6,380
		千円	千円	千円

## 【総合結果】

総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	管渠の標準耐用年数である50年を経過する管渠が今後10～20年で大幅に増加していくため、今後は、平成30年度に策定した下水道ストックマネジメント計画に基づき、幹線・支線いずれにおいても改築更新事業を計画的に実施する必要がある。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
ストックマネジメント計画に基づく管路改築更新の総延長(①)	m	253	253	253
改築更新を要する管路の残延長	m	253	253	228

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
改築延長(累計)(②)	m	0	0	25
改築延長(各年度)	m	0	0	25
工事・委託発注件数	件	1	1	1

活動指標分析結果	下水道ストックマネジメント計画に基づく管渠改築工事を1件発注し、年度内に完成した。 (平成30年度に加古川市下水道ストックマネジメント計画策定業務委託を1件、令和元年度に下水道ストックマネジメント計画に基づく実施設計業務委託を1件完成済み。)
----------	--

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目標値
事業進捗率(②/①)	%	0.0	0.0	9.9	令和5年度	100.0

成果指標分析結果	平成30年度に策定した下水道ストックマネジメント計画に基づき改築事業を推進している。
----------	--

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和2年度実施事業)

事業名	雨水管渠整備事業	部局名	上下水道局
		課名	下水道課

## 【基本情報】

基本理念	未来へつなぐ 安心で快適な暮らしを支える下水道
方針	危機に強い安全・安心な下水道の実現
目標	1 災害への備え
施策	2 浸水対策
関連根拠法令等	都市計画法、下水道法

## 【事業概要】

現状と課題	宅地化が進み農地面積が減少する中、都市部の保水機能が年々低下している。また、近年の集中豪雨により大量の雨水が一気に排水路へ流れ込むため、新たな浸水区域を発生させている。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	44mm/hrの降雨に対応した雨水管渠を整備することにより、雨水を適切に処理できる状態にする。
対象 ※誰、何に対して	市民(整備計画区域内住民)
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	公共下水道事業計画に基づき雨水管渠の整備をする。

## 【コスト】

		令和2年度(決算)
事業費合計		339,390 千円
財源内訳	国庫支出金	103,240 千円
	県支出金	0 千円
	地方債	227,000 千円
	その他特財	0 千円
	一般財源	9,150 千円

## 【会計】

会計	下水道事業会計
款	資本的支出
項	建設改良費
目	雨水管渠築造費

## 【コスト推移】

	平30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)
事業費合計	345,730 千円	305,558 千円	339,390 千円

## 【総合結果】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに、各部局において総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	<p>適切な雨水処理を行うために、公共下水道事業計画に位置付けられた雨水幹線整備を進めている。平成22年度から、普通河川北野川を別府川5-7号雨水幹線として年間約150mの整備を進めており、周辺の浸水被害の軽減が図られている。今後も浸水被害地区を中心に雨水幹線の整備を進めるとともに、総合治水の観点に沿った対策を進めることで、浸水被害の軽減を図る。</p>

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
雨水整備予定面積	ha	3,463.7	3,463.7	3,463.7
別府川5-7号雨水幹線整備事業延長	m	1,741	1,741	1,741

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
雨水整備面積(延べ)	ha	1,568.1	1,574.8	1,577.7
別府川5-7号雨水幹線整備済延長	m	1,056	1,220	1,357
活動指標 分析結果	令和2年度事業のうち一部を繰越しており、令和3年6月末に完成を予定している。完成後の整備面積(延べ)は1,615.6ha、整備延長は1,483mとなる。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目標値
都市浸水対策達成率	%	45.3	45.5	45.6	令和10年度	50.8
別府川5-7号雨水幹線整備事業進捗率	%	60.0	70.0	78.0	令和4年度	100
成果指標 分析結果	令和2年度事業は繰越事業として令和3年6月末に完成予定であり、完成後は対策達成率46.6%、事業進捗率85%と目標に向けて着実に進捗している。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和2年度実施事業)

事業名	汚水ポンプ場施設建設改良事業	部局名	上下水道局
		課名	施設課

## 【基本情報】

基本理念	未来へつなぐ 安心で快適な暮らしを支える下水道
方針	危機に強い安全・安心な下水道の実現
目標	2 管渠・施設の機能維持
施策	2 スtockマネジメントの実践
関連根拠法令等	都市計画法、下水道法、加古川市下水道条例

## 【事業概要】

現状と課題	各ポンプ場については、供用開始から年月が経過し、老朽化が進行している。そのため、平成30年度に策定した下水道ストックマネジメント計画に基づき、汚水ポンプ場施設の改築更新工事を実施している。今後は、令和2年度に実施した耐震診断結果及び令和3年度に策定する耐水化計画と調整したうえで、汚水ポンプ場施設の改築更新工事を実施する。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	建設及び改築更新工事を行うことにより、汚水中継処理及び雨水排水が確実に行われる状態にする。
対象 ※誰、何に対して	汚水中継ポンプ場(安田中継ポンプ場・池尻中継ポンプ場・石守中継ポンプ場)及びマンホールポンプ場
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	対象施設が適正に稼働し、汚水中継処理及び雨水排水が確実に行われるよう、計画的に建設及び改築更新を行う。

## 【コスト】

		令和2年度(決算)	
事業費合計		88,093	千円
財源内訳	国庫支出金	42,215	千円
	県支出金	0	千円
	地方債	25,000	千円
	その他特財	0	千円
	一般財源	20,878	千円

## 【会計】

会計	下水道事業会計
款	資本的支出
項	建設改良費
目	汚水ポンプ場施設建設費

## 【コスト推移】

		平成30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)
事業費合計		41,064	33,961	88,093
		千円	千円	千円

## 【総合結果】

総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	当該ポンプ場の汚水中継処理及び雨水排水処理機能維持のため、平成30年度に策定した下水道ストックマネジメント計画に基づき、令和2年度に実施した耐震診断結果及び令和3年度に策定する耐水化計画と調整したうえで、改築更新工事を実施する必要がある。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
汚水中継ポンプ場(合流)	施設	1	1	1
汚水中継ポンプ場(分流)	施設	2	2	2
マンホールポンプ場	施設	33	34	34

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
工事・委託発注件数	件	3	4	6
活動指標 分析結果	安田中継ポンプ場及び池尻中継ポンプ場の耐震診断調査を実施した。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目標値
汚水中継処理能力	m <sup>3</sup> /分	68	68	68	令和9年度	68
雨水排水能力	m <sup>3</sup> /分	1,116	1,116	1,116	令和9年度	1,116
成果指標 分析結果	計画どおり設備の改築更新を行った結果、汚水中継処理及び雨水排水能力は適切に維持できている。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和2年度実施事業)

事業名	雨水ポンプ場施設建設改良事業	部 局 名	上下水道局
		課 名	施設課

## 【基本情報】

基本理念	未来へつなぐ 安心で快適な暮らしを支える下水道
方針	危機に強い安全・安心な下水道の実現
目標	2 管渠・施設の機能維持
施策	2 スtockマネジメントの実践
関連根拠法令等	都市計画法、下水道法、加古川市下水道条例

## 【事業概要】

現状と課題	平成28年度に策定した西脇雨水ポンプ場長寿命化計画に基づき、施設の機能維持のために平成29年度から改築更新工事を実施している。また、平成30年度に策定した下水道ストックマネジメント計画に基づき、施設の機能維持のために令和元年度から改築更新工事を実施している。 今後は、令和2年度に実施した耐震診断結果及び令和3年度に策定する耐水化計画と調整したうえで、雨水ポンプ場施設の改築更新工事を実施する。
目的	建設及び改築更新工事を行うことにより、雨水排水が確実に行われる状態にする。
※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	
対象	雨水ポンプ場(神野団地雨水ポンプ場・新野辺雨水ポンプ場・西脇雨水ポンプ場・中島雨水ポンプ場)及び場外除塵機・ゲート設備
※誰、何に対して	
事業内容	対象施設が適正に稼働し、雨水排水が確実に行われるよう、計画的に建設及び改築更新を行う。
※目的達成のための手段・手法	

## 【コスト】

		令和2年度(決算)	
事業費合計		306,090	千円
財源内訳	国庫支出金	144,185	千円
	県支出金	0	千円
	地方債	128,500	千円
	その他特財	0	千円
	一般財源	33,405	千円

## 【会計】

会 計	下水道事業会計
款	資本的支出
項	建設改良費
目	雨水ポンプ場施設建設費

## 【コスト推移】

	平成30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)
事業費合計	99,400 千円	321,593 千円	306,090 千円

## 【総合結果】

総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	当該ポンプ場の雨水排水処理機能維持のため、平成30年度に策定した下水道ストックマネジメント計画に基づき、令和2年度に実施した耐震診断結果及び令和3年度に策定する耐水化計画と調整したうえで、改築更新工事を実施する必要がある。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
雨水ポンプ場	施設	4	4	4
場外除塵機設備	施設	10	10	10
場外ゲート設備	施設	12	12	12

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
工事・委託発注件数	件	4	6	6
活動指標分析結果	西脇雨水ポンプ場の長寿命化工事を実施した。また、新野辺雨水ポンプ場及び西脇雨水ポンプ場の耐震診断調査を実施した。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目標値
雨水排水能力	m <sup>3</sup> /分	2,522	2,522	2,522	令和9年度	2,522
成果指標分析結果	計画どおり設備の改築更新を行った結果、雨水排水能力は適切に維持できている。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和2年度実施事業)

事業名	使用料徴収事業	部 局 名	上下水道局
		課 名	お客さまサービス課

## 【基本情報】

基本理念	未来へつなぐ 安心して快適な暮らしを支える下水道
方針	信頼される健全な経営
目標	1 持続可能な経営
施策	2 経営基盤の強化
関連根拠法令等	下水道法、地方自治法、加古川市下水道条例、加古川市農業集落排水処理施設条例

## 【事業概要】

現状と課題	節水機器の普及や環境意識の高まりに伴う節水行動の定着、企業のコスト削減努力などによって使用料収入は伸び悩み傾向にある。下水道事業の財源の根幹となる使用料収入の安定的確保と負担の公平性の観点から、納期内納付の促進と滞納整理の強化を図る必要がある。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	経営の根幹をなす下水道使用料を、納期内に着実に徴収することにより、安定した経営を図る。また、支払い方法の多様化を図ることで、お客さまの利便性を向上させるとともに、未納使用料については、債権管理を強化し、お客さま間の公平性を確保する。
対象 ※誰、何に対して	公共下水道、農業集落排水処理施設の利用者
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	下水道使用料(公共・農集)については、水道料金と併せて利用者から徴収している。下水道使用料の収納については、口座振替、コンビニ収納、クレジット支払いや金融機関の窓口等で納付できるよう、納付し易い環境整備を行っている。納期内に納付されない者に対しては、文書、電話、外勤徴収等による収納業務を行うとともに、水道料金と併せて徴収していることから、2期以上の滞納者については、給水停止等の実効性のある方法も取り入れ収納率の向上を図っている。

## 【コスト】

		令和2年度(決算)	
事業費合計		169,270	千円
財源内訳	国庫支出金	0	千円
	県支出金	0	千円
	地方債	0	千円
	その他特財	0	千円
	一般財源	169,270	千円

## 【会計】

会 計	下水道事業会計
款	事業費用
項	営業費用
目	業務費

## 【コスト推移】

	平30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)
事業費合計	164,829 千円	173,600 千円	169,270 千円

## 【総合結果】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに、各部局において総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	収納率の維持・向上を図るために、口座振替の推奨、コンビニ収納やクレジットカード決済も導入し、納期内納付が行える環境が整備されている。また、新たな支払方法の検討も継続して行い、収納率の維持に努める必要がある。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
下水道使用料の現年分調定件数	件	589,686	598,070	606,054
農集排処理施設使用料現年分調定件数	件	4,052	4,045	4,064

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
下水道使用料収納済額	千円	3,241,623	3,246,775	3,291,161
活動指標 分析結果	下水道への接続件数は整備推進に伴い増加しているものの節水機器の普及や環境意識の高まりに伴う節水意識の定着などによって使用料収入は微増傾向にある。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目標値
収納率(現年度)	%	91.0	90.7	90.3	令和2年度	91.1
収納率(過年度)	%	94.4	94.7	97.1	令和2年度	94.8
高額滞納者人数(10万円以上)	人	41	41	36	令和2年度	0
目標値を平成29年度より設定した。						
成果指標 分析結果	高額滞納者(10万円以上)の人数を急激に減らすことは難しいが、継続して分納誓約や納期内納付を確実に履行させることにより減少させていくことが重要である。					

## 加古川市上下水道局 事業評価シート(令和2年度実施事業)

事業名	公共下水道受益者負担金徴収事業	部局名	上下水道局
		課名	お客さまサービス課

## 【基本情報】

基本理念	未来へつなぐ 安心して快適な暮らしを支える下水道
方針	信頼される健全な経営
目標	1 持続可能な経営
施策	2 経営基盤の強化
関連根拠法令等	都市計画法、地方自治法、加古川市下水道事業受益者負担に関する条例

## 【事業概要】

現状と課題	整備区域が市街化区域から市街化調整区域へと移るにつれて、対象人口に比べて整備費用が増加傾向にあることに加え、個々の宅地面積が広いため受益者負担金額も高額となっている。工事説明会等で事前にその目的や金額について丁寧に説明を行い、受益者から十分な理解を得ることが課題となっている。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	受益者負担金を賦課した人や事業所(土地所有者)が納期限内に完納する状態にする。
対象 ※誰、何に対して	受益者負担金を賦課した人や事業所(土地所有者)
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	加古川市下水道事業受益者負担に関する条例に基づき、受益者負担金を賦課徴収する。

## 【コスト】

		令和2年度(決算)	
事業費合計		3,690	千円
財源内訳	国庫支出金	0	千円
	県支出金	0	千円
	地方債	0	千円
	その他特財	0	千円
	一般財源	3,690	千円

## 【会計】

会計	下水道事業会計
款	事業費用
項	営業費用
目	受益者負担金賦課徴収費

## 【コスト推移】

		平30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)
事業費合計		2,511 千円	3,163 千円	3,690 千円

## 【総合結果】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに、各部局において総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	未収金が発生しないよう、工事説明会等の機会をとらえて、受益者負担金制度についての理解に努めるとともに、納付忘れのないよう口座振替や、一括前納報奨金制度をPRし、期限内納入の実現を図っていく。また、納付期限を過ぎても納入のない場合は、督促状及び催告書を送付、さらに長期に亘る滞納の場合には、年間を通じて電話督促、外勤徴収、裁判所への交付要求等の滞納整理を行い、未収金解消に努める。

## &lt;計測可能な数値による事業評価&gt;

## 【対象】

対象指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
現年分調定件数	件	704	586	543

## 【事業実績】

活動指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
賦課徴収経費	千円	2,511	3,163	3,690
活動指標 分析結果	負担金の賦課件数の増減に連動して、徴収経費の前納報奨金も増減しており、賦課件数が多い年度ほど徴収経費も増加している。			

## 【事業成果】

成果指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目標値
収納率	%	96.2	98.0	98.4	令和2年度	97.1
成果指標 分析結果	年度間で徴収金額の増減はあるものの、収納率は大きな変動も無く推移している。引き続き収納率の向上に努める。					